

茜町春彦

歴史

(1055) 『エッセイ』

前九年の役

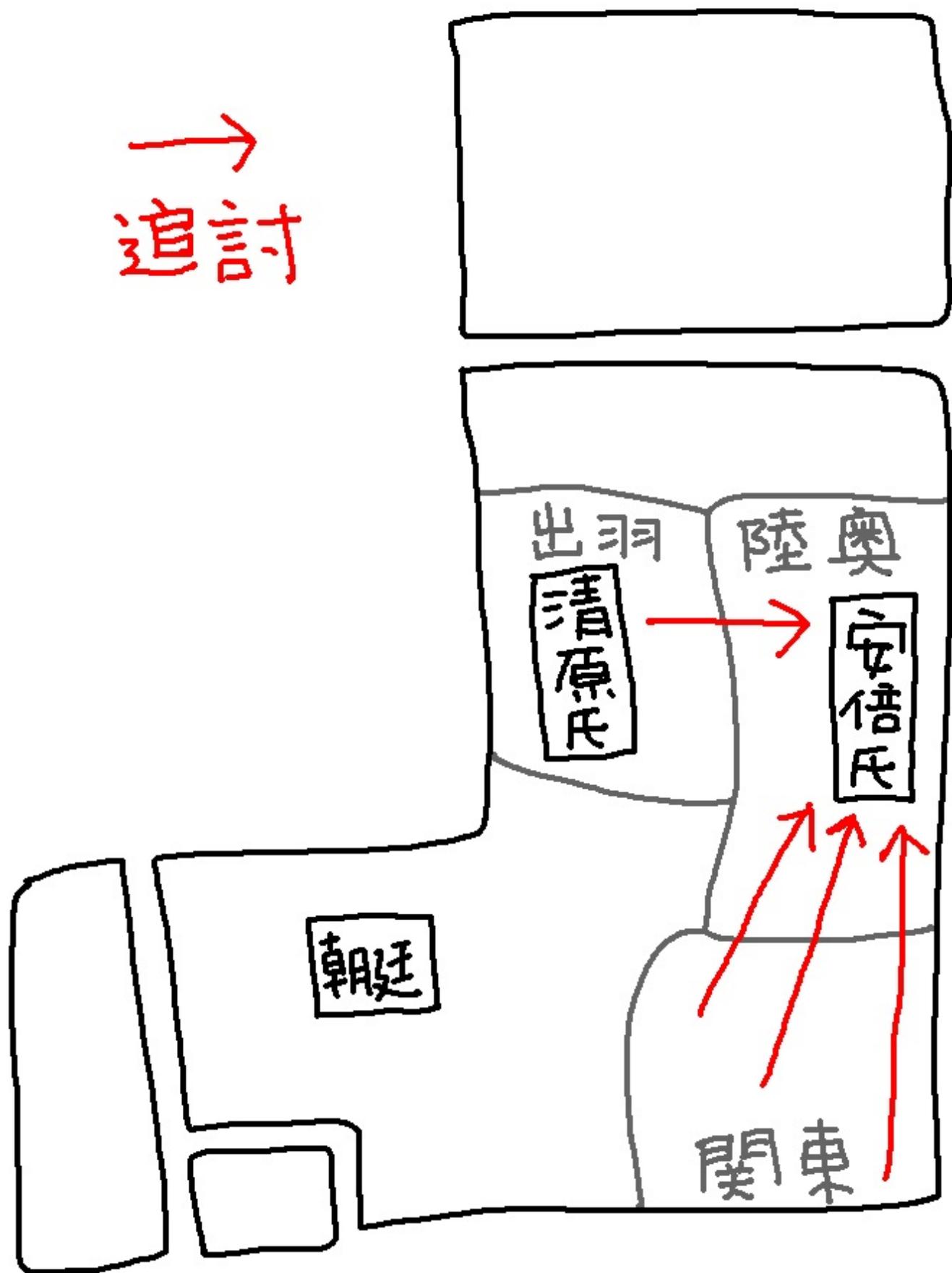
(ベータ版) 凸

歴史（1055）

『エッセイ：前九年の役（ベータ版）』

著者：茜町春彦

概要：武家の棟梁の地位を父の源頼信から継承した源頼義は、なぜ関東の在地武士との主従関係を強固なものに出来たのか？と云う事について解説します。



時系列

平安時代中期

西暦1051年

陸奥の豪族安倍頼時が、大和朝廷への納税を拒否する。
陸奥守の藤原登任は、懲罰のために軍勢を送るが、安倍頼時の反撃に遭い敗走する。
朝廷は、藤原登任を罷免し、代わりに宮廷武官の源頼義を陸奥守に任命する。

西暦1052年

源頼義が、陸奥国府に着任する。
同時期に朝廷で恩赦が実施され、安倍頼時も免罪となる。
安倍頼時は、源頼義と和議を結び協調関係を築く。

西暦1055年

安倍頼時の長男貞任が、在庁官人を殺害する。このことが源頼義によって朝廷に報告され、安倍頼時は朝敵となる。

西暦1056年

朝廷が、安倍頼時の追討を命令する。
命令に従って源頼義は、関東の在地武士を陸奥に呼び寄せて追討軍を結成する。戦闘を始めたが兵糧不足となり追討を停止する。追討軍は解散されて、関東の在地武士は帰郷する。

西暦1057年7月

源頼義は、手勢を使って、安倍頼時との戦闘を再開する。
流れ矢に当り安倍頼時が戦死したので、追討は一応成功する。
しかし長男貞任をはじめ、安倍一族は徹底抗戦の構えを崩さなかった。
そこで源頼義は、安倍貞任の追討の許可を朝廷に要請する。

西暦1057年11月

朝廷は、安倍貞任の追討を許可する。
源頼義は、関東の在地武士を再動員して追討軍を結成する。
酷寒の中、戦闘を開始するが反撃に遭い、追討軍は敗走する。
戦況は膠着状態に陥り、そのまま数年が過ぎる。

西暦1062年

源頼義は出羽の豪族清原氏に援軍を求め、連合して追討軍を結成し、追討を開始する。

苛烈な戦闘が行なわれ、安倍貞任は戦死して、安倍一族は滅亡する。

安倍頼時は、強力な軍事力を保有する陸奥国の豪族です。大和朝廷の軍勢と戦っても勝てると過信していたのです。陸奥国を自分の支配下に置きました。そして朝廷への納税を拒否して、税金を自分の懐に入れていたのです。

しかし武家の棟梁源頼義が陸奥守として国衙に着任した後は一転、朝廷へ帰順する意向を示し、納税義務を果たすようになりました。源頼義は多くの郎党を従えていたので、直接対決となれば、自分たちの土地が戦場となり、勝っても負けても被害がでることになるので、それを避ける思惑があったと思います。また陸奥守の任期は4年なので、4年経てば源頼義は畿内へ帰るので、それまでの辛抱だと考えたとも思います。そして暫くの間、安倍頼時は源頼義と協調関係を保っていました。

しかし安倍頼時の長男、貞任が在庁官人を殺害して仕舞いました。官人を殺したという事は朝廷に弓を引いたという事であり、安倍頼時は朝敵として追討を受ける立場に追いやられて仕舞いました。こうなれば致し方ありません、徹底抗戦です。

源頼義が関東の在地武士を動員して追討を開始しますが、一進一退の戦況の中、追討軍は兵糧不足に陥り戦闘続行不能となり解散してしまいました。その結果、陸奥国は安倍頼時の支配下に戻りました。当然、安倍頼時は納税を行いません。

陸奥守の一番重要な役目は徴税です。この状況に困った源頼義は、無理矢理少ない軍勢で戦闘を再開しました。安倍頼時がたまたま流れ矢に当り死亡しましたが、安倍貞任が安倍一族の新しい統率者となり抗戦を継続しました。安倍一族の軍勢優位の状況に変化はありませんでした。

朝廷は、税金が集まらないと困るので安倍貞任の追討の命令を出しました。

朝廷の命令の下で戦闘に勝てば、朝廷から武士に褒賞が出ます。褒賞目当てで関東の在地武士が源頼義の下に再び集まって来ました。追討戦を再開しましたが、反撃に遭い又も敗走してしまいます。そして追討軍劣勢のまま、膠着状況が続きました。

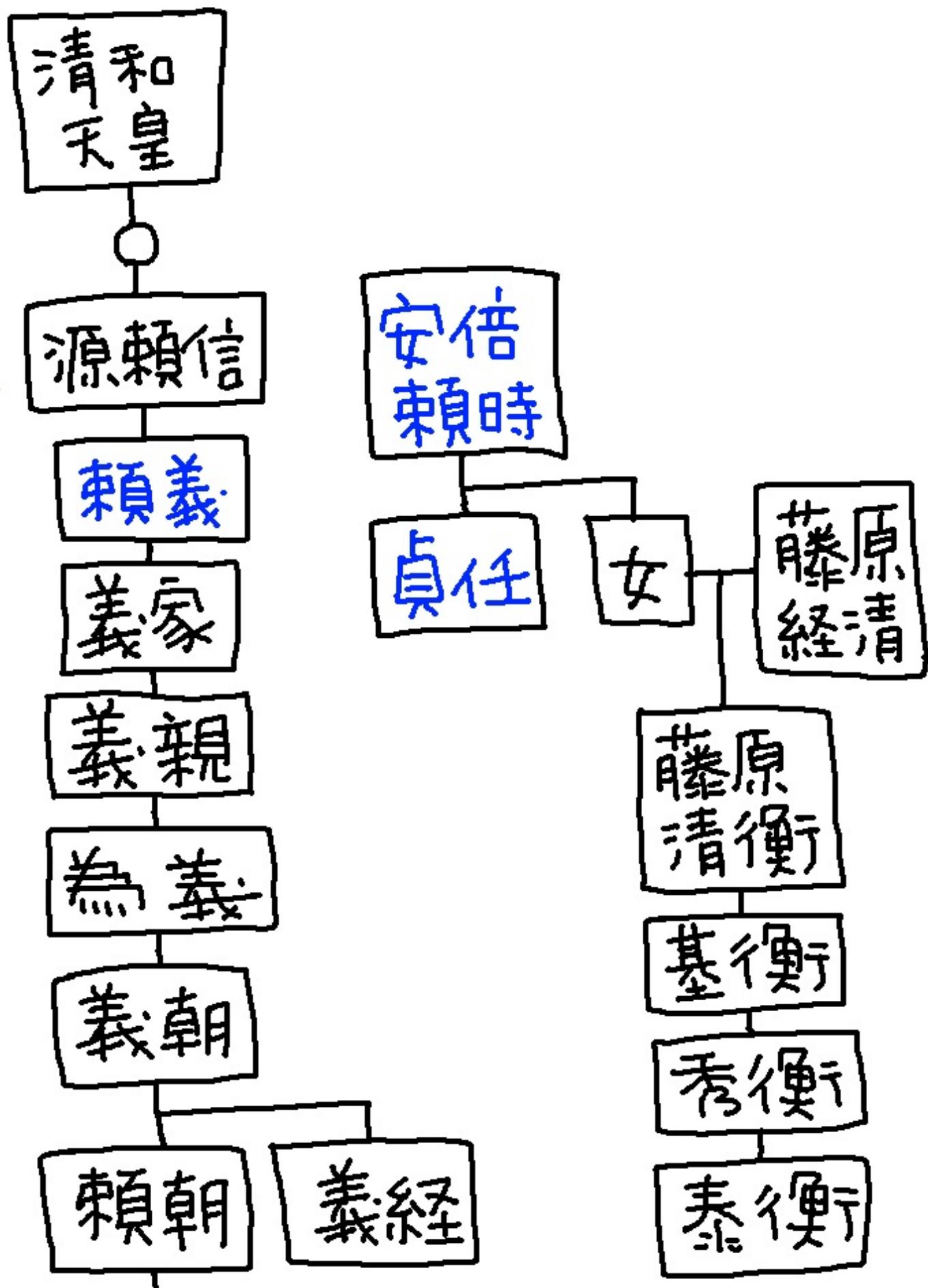
このままでは自分の立場が無くなると考えた源頼義は切羽詰まり、出羽国の豪族清原氏に懇願して援軍を求めました。清原氏は、この機に乗じて安倍氏を排除すれば陸奥国への支配拡大が見込めると考えて、援軍を送ることにしました。

源頼義は、援軍の御蔭で追討戦を続行することが出来て、安倍一族を倒すことが出来ました。

追討に成功した源頼義は、郎党たちの褒賞を朝廷に対して強く要求しました。その結果、多くの郎党たちに位階・官位が与えられました。源頼義郎党、つまり関東の在地武士は、自分たちのために朝廷に褒賞を要求する頼義を有り難いと思ったことでしょう。武家の棟梁として頼りになると思ったことでしょう。

当時、一騎討ちが武士の戦い方でした。しかし安倍氏追討戦では、奇襲や籠城戦、兵糧攻め火攻めなど苛烈な戦闘が行なわれました。以前にはない凄絶な殺し合いになったのです。同じ釜の飯を喰い苛烈な戦闘を潜り抜けたと云う経験の共有が、源頼義と関東の在地武士との主従関係を強固なものとしたのです。

《了》



後書き

参考文献：

次の文献を参考にしました。

- 武士の成長と院政：2009年3月10日第1刷発行 下向井龍彦著 講談社学術文庫
- 頼朝の天下草創：2009年4月13日第1刷発行 山本幸司著 講談社学術文庫
- 蒙古襲来と徳政令：2009年5月11日第1刷発行 笥雅博著 講談社学術文庫
- 中世社会のはじまり：2016年1月20日第1刷発行 五味文彦著 岩波新書
- 鎌倉幕府と朝廷：2016年5月16日第3刷発行 近藤成一著 岩波新書
- 吾妻鏡（一）：2008年4月4日第9刷発行 龍すすむ著 岩波文庫
- 歴代天皇総覧：2001年11月25日発行 笠原英彦著 中公新書
- 武具の日本史：2010年8月10日初版第1刷 近藤好和著 平凡社新書
- 相模のものゝ心たち：平成21年2月28日第14刷発行 永井路子著 有隣新書
- 北条氏と鎌倉幕府：2011年3月10日第1刷発行 細川重男著 講談社選書メチエ
- 僧兵＝祈りと暴力の力：2010年11月10日第1刷発行 衣川仁著 講談社選書メチエ
- 中世の村のかたちと暮らし：平成20年6月10日初版発行 原田信男著 角川選書
- 天皇はなぜ生き残ったのか：2009年4月20日発行 本郷和人著 新潮新書
- 新・中世王権論：2004年12月10日初版第1刷発行 本郷和人著 新人物往来社

CG画像：

次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

- ArtRage 3 Studio Pro アンビエント社
- Photoshop Elements 10 アドビシステムズ株式会社

著者：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。

2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。独自のアイデア・考察を社会に提示することをミッションとし、平等で自由な世界の構築を目指して創作活動を行なっております。また、下記WEBサイトに於いても、デジタル作品を公開しております。

- YouTube （動画共有サイト）
- Google+ （ソーシャルネットワークサービス）
- 楽天Kobo電子書籍ストア （ネットショッピングサイト）
- はてなブログ （WEBLOGサービス）

その他：

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

2017年3月9日発行

歴史（1055）『エッセイ：前九年の役（ベータ版）』

<http://p.booklog.jp/book/113560>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/113560>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト